



スマホ社会

……今般のニュースに対し全国の皆さん28名の方からの寄稿がありました。その寄稿を大事したく「特集号」を作成しました。なお字数の関係もあり一部省略、そして無記名にて編集をしましたことご了承下さい……(事務局)

### 労働組合の社会的責任と

#### 政治を変える運動は一体のもの

■日本郵便で、全国の郵便局の2300ヶ所余りで配達業務者に対し、法令で定める飲酒の有無などを確認する点呼を適切に行っていないことが判明しました。そこに労働組合はあったのか、そのことが問われる問題と私は考えます。同時に労働組合の社会的責任は問われなければなりません。

しかし政・財界は労働運動の弱体化・分断のために「組織の弱体化」を画策し、それもきつかけとなり、今言うところの「労働組合の変節」をもたらしました。そしてさらに時間が経過し、それは「労働組合の変節」にとどまらず、それも含めて労働組合がかつての力を取り戻す社会的な素地はほぼ失われてしまったのではないかと感じています。今般の「法令無視」は、働く本人はもとより、その車両の接触により人命を奪いかねない交通事故に結びつくものであります。さらに関係業務の5年間の停止は労働の場を失うものであり、企業のみならず労働組合の責任と言わなければなりません。そして労働組合の社会的責任と政治を変える運動は一体のものとして私

は考えます。

私が現役を退いてからすでに15年が経ちます。職場環境も従業員の意識もすっかり変わっていることは想像に難くありません。自分の意見を労働組合を通して表現するという感覚はほぼ皆無なのではないでしょうか。

同時に、企業に対する従業員の帰属意識が希薄になってしまっていることや働き方の多様化からくる「働く」ということ意識の変化からくるものと思っています。

若い人は職場が気に入らなければ転職の道を選ぶでしょうし、自ら起業することの選択肢も増えています。起業の選択肢は経営者(資本家)対労働者という構図も希薄になりました。若い世代は、賃金交渉や限定的な職場環境の交渉以上に組合の存在価値を認めてはいないのだと思います。また選挙でも、労働組合は労働者の立場というよりも経営者と一体になって「業界」利益のために動いている印象があります。

#### フェイクが氾濫し、

#### 言葉が力を失っている

■先の参議院選挙で社民党はかろうじて政党要件を満たしましたが、主としてそれは高齢者世代の支持が支えたものであり、若い支持者の拡大が見込めない限りいずれは厳しい局面を迎えるかもしれません。それは市民運動の多くもそうです。シルバー民主主義と揶揄されつつ、活動縮小を余儀なくされてゆくとも思います。

たしかに鍵は「若者・女性への軸足」だと思いますがその環境は私たち高齢者には作れません。一回り若い私の世代もはや後期高齢者です。よって一回りや二回り、いやもつともつと若い世代が作っていかねばならないものだと思います。それを信じて若い人に託す以外に道はないのだと思います。もちろん不安や懸念はあります。またフェイクが氾濫し、言葉が力を失っているような現在、民主主義の根幹である「個」を大切にする理念などが軽んじられてゆくのではないかと不安はつきません。高齢者世代は、若い世代に「譲る」のではなく自らの足跡と、積み上げてきた思いを語り、残し続けるしかないのだと思います。確かに世界の底が抜けたように想像を超えて嫌なことが続きますが、せめていつも意識的でありたいと思うばかりです。

もう外国人抜きでは経済が回っていかない日本ですのに、日本人ファーストをうたう政党の躍進は、どうかと思いますし、それが進めばやがて徴兵制がくるのではと危惧します。

#### ニュースを見ずに情報を

#### SNSから得る若い世代

■労働組合を通して表現する地域の異常は想像のとおりです。ちなみに私は現在マンション暮らしなのですが、両隣の方は名前を知っているだけで、全く交流はありません。上階の方は、氏名も家族構成すら知りません。管理組合があるので生活する上で必要な情報などは届き、不都合は生じませんが、なおのこと近隣の方と交流する必要がないのです。世代が大きく離れていればなおさらです。幼少の記憶にある近隣とお付き合いとは全く異なった世界です。数十年でここまで変わるものとなっています。

社会学者の橋本健二氏が9月5日の朝日新聞のインタビューコラムで、最下層の「アンダークラス（パート主婦を除いた非正規労働者）」のブラックホール化、政治からの疎外を訴えているという記事を読みました。これまで政財界により非正規雇用を増やす施策が進められてきました。かねてから社会的な課題の多くが格差の拡大に起因していると考えているのですが、現状の格差を認識しながら政治の世界で所得再配分を強化するなどの動きは感じられません。一方、連日自民党の総裁選の前倒しに関するニュースがあふれています。こんなものが「政治」であるはずがありません。

政党内の政局を仔細に伝えることが「政治」を伝えるように振る舞うメディアはますます信頼を失います。他に事故、事件に関しても必要ないほど繰り返して詳細に伝えるメディアですが、新聞やTVニュースを見ずに情報をSNSから得る若い世代が増えることも当然かもしれません。発表報道ではなく、信念を持って取材報道を続けているメディアがほとんど消えてしまいそうな現状に危機感を抱きます。

## 歴史を振り返り

### 改めて戦争と平和を考えたい

■今の運動に、私たち高齢者では手の届かないことが増えています。特に若者対策などは残念ながらどうにもならないのが実情です。しかし、それに取り組みなければ政党としては生き続けられないとするなら、組織としてしっかりと方針を持って取り組んでほしいです。私たち高齢者は毎年少なくなっていくます。体力的にも精神的にも力がなくなり、歯がゆいばかりですが、それでもできることは取り組みたいと思っています。

今回の参議院選挙で社民党も、党を挙げてという方針はあつてもどれだけ全党一致して取り組めたのか点検と総括が必要です。私たちも総括をしなければなりません。つまり我々ができたのは約3か月間、駅頭での街頭宣伝やチラシの各戸配布、ポスターの掲示、電話かけなどでした。どれだけ効果があつたのかは疑問ですが、それぐらいしか取り組みなかったのです。しかも党員全員の参加を目指しましたが全員参加とはいきませんでした。高齢者ですからやむを得ないことです。それでもよくやったほうだと思っています。こうした行動も新社会党と共同行動ができたことではなしたことでした。これが実情ですから、もうえで今後の対策を考える必要があります。

新しい入会者がいなければじり貧の状態です。(すでに病人で行動には参加できない人もいます) そのような実情の中、党再建や各種選挙に取り組みなければなりません。さらに自治体議員を作らなければこれからの党活動ももつときびしいことになるでしょう。かつての仲間たちも年を重ね行動は鈍っていますし、「頭ではわかっていても、体がついていかないね」が合言葉になりました。それでも残された人生、それこそ悔いのないように頑張ろうと決意をしています。

8月15日という記念の日を今年も迎えました。これまでの歴史を振り返り、改めて戦争と平和を考えたいと思います。運動に参加をした時代を思い出し、そして労働運動の現状を見ると、あるいは考えるとき、現在の労働運動の社会的責任を考えます。

### 日本における「新自由主義」を考える

■党員の高齢化の現状を考えれば、まさに今、若い人たちに「護憲・平和の社民党」を引き継いで

いってもらわなければなりません。具体的にどうすれば良いのかと言うことを話会しました。私は大学卒業以来、派遣労働者として「コンピユータ業界」で働いてきましたので、組合運動には関わったことがなく(派遣労働者には組合自体がありませんでしたから)、実感として分からないことが多いのですが、神奈川県で毎年やっている「反核・平和の火リレー」などでは労組の若い人たちも参加します。そもそも労働組合の組織率が低すぎるといふ問題もありますが、そういう運動の中から、若い人たちからの支持を集めていく必要があるのではといった話もできました。まだ結論には至っていませんが「何ができるのか」を色々と考えていかなければならないと思います。

コンピユータ関係の労働者はいわゆる「専門職」として、当初から「派遣労働」が認められていた職種です。当時、派遣労働が認められていたのは10数種の業種に限られていましたが、その後の労働法制の改悪につぐ改悪で、今や全労働者の半数近くが派遣労働者、という状況にまでなってしまうました。私がコンピユータ業界で働いていた頃は、現在の「ユニオン」というものはなく、派遣労働者は全く何の声も挙げられない状況でしたが、当時は高度経済成長期だったので、技術的に能力のあるエンジニアは、より良い待遇を求めて何度も転職をしたり、特に「外資系企業」にヘッドハンティングされるといふ状況も多かったと思います。その後、高度経済成長長期がすぎるとIT関係の派遣労働者の待遇はますます劣悪になり、それに対抗して「ユニオン」を結成して会社側と戦うという運動の流れが出来てきたと思います。私の現役時代にも「ユニオン」があればきつとそこであつたのではないかと思えます。

なお、今回の参院選における「SNSの活用」というテーマについては先日総括案をまとめました。以外に思われるかもしれませんが、私の結論は「SNSに力を入れる」とは推奨しない」というものになりました。何故かという、最も重要なポイントは、You・Tubeの動画の再生回数の比較です。これを見ると自民・参政・立憲がトップスリーですが、参政党は議席を増やしたものの、自民は議席減・立憲も微増にとどまりました。公明も再生回数では4番目ですが議席を減らしています。もともと顕著なのは「再生の道（石丸新党）」で共産党をも上回るような回数を出しているのに獲得議席数はゼロでした。「You・Tube再生回数が必ずしも議席数に相関しない」という観点を見ます。

また、日本の労働運動の歴史については、私は全くの部外者ではありませんが、国労の方々からあの「国労つぶし」が如何にひどいものであったかをお聞きしたことがあります。日本の資本家階級は、(まさに階級闘争として)それを意図的にやってきたのだと思います。世界的に見れば、「労働運動つぶし」が最も成功したのは、まさに日本ではないでしょうか。その結果、資本の方もいわば「甘やかされてきたために、日本の国際的地位も没落の一途をたどってきたというのが現実でしょう。何故なら、賃金を削ることで簡単にコストダウンができ、企業努力(技術的イノベーションを含む)をしなくても利潤を得ることができたからです。

日本における「新自由主義」は、まさに「組合つぶし」と労働の非正規化)にこそ表されました。その結果、30年以上実質賃金が上がらない国になってしまいました。そんな国はOECD諸国中、日本だけです。

最後にSNSについてですが、「SNSで拡散」ということも一定の時間がかかることです。歩行中でも、乗り物の中でも、家にあつてもスマホが生活の一部になっている若い人たちならともかく、私たちの年代の多くの人にとっては「他の事で忙しくて、そんなことはやっていられないよー」というのが本音ではないでしょうか。無理に「SNSを活用」といっても、ほとんど意味はないと思います。

### 郵政職場の「法違反」を考える

■郵政職場における労働基準法などの違反等に対する労働組合の対応がどうなっているのか懸念しています。党員の高齢化の問題もありますが、多くの市民が年々貧困化とともに新聞も購読できない、本も読まないでスマホからのデータ入手で若い人は参政党・国民民主党に投票したとのデータがでてきます。

立憲や共産党は減票しましたが、消費税廃止を訴えていたれいわ新選組は一定の支持を得ました。貧困化する多くの人が安心して生活するために社民党福島県連は食料品の消費税ゼロから消費税廃止、最低賃金直ちに全国一律1500円の実現から1700円に、課税最低限を300万円にすることを訴え、福島民報・民友新聞に2回の折込みをして浸透をはかりました。党員の頑張りもあつて、福島県内は21.8%の得票を得ました。党員以外でも、社民党に期待する人がいます。その人の意見を聞いて党運営に生かしていくことが必要と考えます。

社民党いわき総支部の党員は、いわき市職労や全国一般いわき自由労組の役員を担い、組合員との接点があります。一方では生活困窮者との接点と問題解決のために「暮らし労働相談会」(年3回で、今回で14回目を迎えます)を開催し

ています。

具体的に、生活困窮者との接点が必要と考えます。このような取組みの継続は若い人との接点は難しいものがあります。いずれにしても、日常的な党員の交流と意見交換を積み上げていくことが大切と考えています。

### 労働組合・退職者会との繋がり

#### 繋がりをも強めよう

■参院選はラサール石井効果もあり、辛うじて2議席得票率2%の政党要件を確保しましたが「政党要件を得て良かった。」というような認識では社民党の前進はありません。「何故、ギリギリの状態にあるのか。」「この状態から一歩進めるために何をやるのか」という総括を本気になつて議論することから始めることが大事だと思えます。現状の弱小政党のままでは、国民の信用を得ることは出来ません。国会と地方議会で議席を獲得するための具体的な方針を早急に構築しなければなりません。党員や党支持者も高齢化が進み年々減少しています。若い人への拡大も進みません。

また、維持することが益々難しくなっています。社民党は社会党の時から「働く者の党として」労働者と連帯して進んできました。しかし、連合との関係も接点も極めて薄くなっている中で、労働者の労働組合離れが進んできました。

社民党は労働組合・そして退職者会と繋がりをも強め、賃金や労働環境、生活環境、社会福祉等、諸々の制度や仕組みの改善を進めることが重要なことは言うまでもありません。そのための市民活動との連携はもちろん必要ですが、「働く者が大切にされる社会」を造るために労働組合運動を頑張ってきました。そのことを求めること

が私たちに課された課題だと思えます。

### 社民党の一体的な討論が必要です

■地域的には、少数の労働組合や退職者会との繋がりを大切にし何とか連帯を維持していますが年々難しくなりつつある状況にあります。その繋がりを強める取り組みが急がれています。

党全国連合も、労働者(労働組合・連合)との関係強化に向けた取り組みをさらに展開してほしいと願います。参院選の取り組みにおいて、福島党首は『社民党を変える(または変わる)』『社民党は再起動する』との街宣等での発言がマスコミで報じられました。正直なところ「何を、どう変えるのか?」「何を再起動するのか?」など、発言主旨が分かりませんでした。是非とも党中央、そして県連、総支部組織の一体的な討論の提起をお願いします。

### 「令和の米騒動」の中で「日本人ファースト」が大きく取り上げられた

■2025参議院選挙の感想です。

傘の用意は十分でしたか。(候補者の擁立は? )。傘を借りる事で(ラサール石井氏の擁立)でずぶ濡れになることは免れました。とりあえず、政党要件の2%をクリアしました。

埼玉県連合は、候補者の公募で神奈川県「高井たまきさん」を選挙区に擁立しました。選挙では「LINEグループ」を作って情報を共有しました。また候補者の画像や動画を選挙カーのスタッフからLINEグループに投稿、責任者からX(旧ツイッター)に投稿していました。しかし社民党のグループでのXの発信が少ない。さらにYouTubeもインスタはもっと少ない。選挙ではSNS戦略が議論されているのに参加していたのは

3人の地方議員と党員3名ぐらいでした。良く2%をクリアしたものです。

大椿ゆうこさんを当選させられなかったけれど、ラサール石井氏を擁立しなければ、2%はクリア出来なかったでしょう。実際は、スタッフが少ないので、Xに投稿する人も時間もないのが、実情かと思えます。本番の政策ポスターは「ミサイルよりコメ」となりましたが、昨年の夏から「令和の米騒動」と言われているのにその事はあまり話題にならないで、「外国人の医療問題」など、「日本人ファースト」が大きく取り上げられていました。

熊谷総支部の取組みは2月から月1回ですが、駅頭宣伝行動を行ないました。選挙期間中は、比例区候補者の「標旗」ないので、出来る行動と考えて、政策ポスターに「比例区の大椿ゆうこ」、「ラサール石井」のポスターを使い、駅頭でスタンディングを熊谷駅2回、籠原駅4回実施しました。全国で標旗行動が行なわれたとおもいますが、多くの県の取組みはネットで見ることはありませんでした。残念です。

### 生活の中での運動の視点を強めたい

■自宅の向かいに80歳を超えた一人暮らしの女性がいた。2年前の震災時、テレビの画面は避難された皆さんの姿を映し出している。炊き出しの前に並ぶ人人、床の上にダンボールを敷きそのうえに毛布。3月である。まだまだ気温は低い。乳飲み子を抱えた母子一組くらいなら家に連れてきてもいいがと考えた。しかしそれとて誰にするか、いつまで続けられるか。そんなことを考えるのが難しい。しかし食事をしていても、酒は好きなので晩酌をしてもまずいし、切ない。心優しいことを考えたとしても、本音は食事がまずいとい

う自分勝手なことである。そこで向かいの家のチャイムを鳴らした。幸いにして水、電気は止まっていない。「灯油はありますか。食事はどうですか」と尋ねる。灯油もあり、保存食はそれなりにありますとのこと。そして「ストーブはつけません。揺れますから、コタツがありますし、米に味噌、塩があれば大丈夫ですよ。戦後を経験していますからこのくらいでは驚きません」と。

その女性が先月亡くなった。この2ヶ月姿が見えなかった。今年の冬は厳しかった。子どもとこのころでも行っているのかなと思いつつも気にはなっていたが、息子さんがご挨拶に来られ母が亡くなったとこの報告を受ける。長期間にわたり夫の看病をしたことは聞いていたが、それもあつてのことか、子どもには余り負担をかけない「子ども孝行の終い方」をしたのだろう。

それにしても昨年暮と新年に私の縁故の老人二人が亡くなった。一人は孤独死、一人は突然死。介護、看護の問題を抱え、しかも老老介護、認認介護などが言われる今日、そのことよって悲しい事件も起している。とするなら、この二人の終り方もある意味では受容されて良いのかもしれないと感じた。

それにしても1500万円を孫の教育費に当てるなら免税するなどをシャーシャーという国の最高責任者の言葉には憤りを感じる。

戦中、戦後を生き抜いてきた高齢者の晩年にささやかな安心感を与えることこそ政治であるう。  
(2013年4月18日・日記より)

### 全国の読者の皆さんへ

今後ともニュースの発行に努めます。  
是非とも寄稿をお寄せください。(事務局)